

“ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

(くらし・環境部)

事業番号	12	事業名	男女共同参画推進事業費
------	----	-----	-------------

1 基本情報

実施日/班名	9月7日 第3班	時間	14:40~15:58
担当課名	男女共同参画課	事業費	5,100千円

2 レビューの結果 施策を推進する効果の程度

結果	あまり効果がない	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	1
			一定の効果がある	11
			あまり効果がない	16

3 県民評価者の意見

(1)見直し・改善策

目的指標	<ul style="list-style-type: none"> これまでの事業実施による成果は評価できる。この事業が定着することが視野に入ってきた今、事業の目的、目標について見直す時期にきている。数値化を目標とするのではなく、特に女性の意識を変える取組みを推進していただきたい。また、平行して職場の環境整備を整えるために必要な施策に係わる目標をあげていく必要がある。 女性の比率を上げることが目標、目的のように思える。比率を上げることが男女共同参画なのか。
対象範囲	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 「男と女の担うべき仕事には当然違いがある」との観点に立って共同参画を考えるべき。 取組みを促進することが重要な役割であるとするならば、その取組みの内容を現時点での「女性の選択」の在り方に適合したものに改めるべき。 男女共同参画をテーマにして、逆にやるべき事が縛られていないか。人権問題として、対策を打つ部署を作り直すべき。 女性、特に高齢の方(女性に限らないが)の価値観を下の世代にそのまま伝わらないようにすべきでは。 今さら本当に議論する内容か。UDの中でまとめて考えるべき話し。 町内会等の代表で県内の女性の割合が低いとは思っていたが、全国と比較すると随分差があることが分かった。割合を上げていくには、色々な課題があり、クリアには時間がかかりそう。ここでの事業内容が浸透することを願う。 活動が少ないと感じた。小櫻委員が男の品定めを指導されましたが、例えばストーカー行為が目で見えて分かるものではなくて、精神作用ですから、犯行の見定めはセミナーでは無理。 男女共同参画について、自分としては女性の権利のみの主張としか考えられない。男女平等は良いのですが、家族の在り方から男女の有様を考えていきたい。仕事のあり方からのみ考えているようにしか思えない。 女性、男性の生まれながらの特性をもっと教育すべき。

- ・女性を上位の役職につかせる、つかせたその率が上がれば効果が上がっていると思うのは大きな誤りである。
- ・現代の20代、そして今の大学、高校、義務教育の人たちは、我々が思うような男女の差別を感じていない。むしろ、女性のほうが男性を負かしている人の方が多い。あざれあ(女性会館) これも会館の名前を変えた方がよい。
- ・通り一遍の講演会は廃止し、この経費を効果のあるものに振り向けるように。
- ・グローバル世界が進む中、急激に進むと思う。むしろ、この問題は人生(人間)の生き方等で担当していくことが適当である。
- ・話に出た、「その後の調査を実施して、公表しながら意識の改革を進める」、「女性防災係」のように、特に自治会長でなくとも、女性なり男性なりの特性を活かした職域の創出も必要」に同感である。
- ・働きたい女性が働きやすい環境づくりをすることが第一ではないか。「宣言」企業、団体の数を増やすことだけでなく、実際の改善の内容を把握しているのか。改善内容の情報提供、開示が必要である。
- ・男女共同参画の必要性は当然であるが、この考え方が仕事量の増加、女性への負担につながっていくことが不安である。
- ・意識調査においても、負担の有無についてストレートで確認する必要があるのでは。
- ・なかなか前に進めないのは、県民ひいては国民の意識が変わらないのは、明治以来の悪しき風潮、風習が変わらないからである。お題目のように唱え続けてもなかなか解決、解消しないと思うので、息の長い取り組みとなる。
- ・実現を目指す男女共同参画が、現状把握が見えにくい。
- ・地域に対しての働きかけが不十分。
- ・女性経営者の意見、話しを県民に紹介してみたいか。
- ・女性に対する暴力をなくす運動とともに、男性が女性に感じるプレッシャー等を掲示する。
- ・立派な建物の「あざれあ」ですが、もう少し門を開いてほしい。一般人が入ってもよい所なのかどうなのか、足がすくんで入りにくいですね。
- ・箱物があっても進まない。男女の機会不平等が続いている。これは、女性の仕事の平等が関係しており、子育て中、介護中、出産中など、こと細かに施策を考えてほしい。
- ・基本的問題は、職業の安定している女性では明らかにならない事だと思う。
- ・男女共同参画の日記念事業の土日祝開催。
- ・それぞれの実施項目についての調査方法を見直したほうが良い。
- ・推進のために何が必要なのかの現状把握が薄く感じる。どんな問題であって、その解決のためにどんな計画が必要かを考えてみてほしい。
- ・意識調査をこまめに実施して、その変化の分析も必要ではないか。
- ・評価方法が確立されていなければ事業を行う意味がない。
- ・広報活動に力を入れる(宣言事業所の進行、内容の報告+調査、中小企業対策、PR)。
- ・難しい問題、課題が多い。新しい問題に取り組んで本来の目的に近づいてほしい。
- ・男女共同参画白書(年次報告書)を公告する。
- ・末端組織(自治会等)に対するアピールを多くする。
- ・女性が加わることにより、地域における活性化にもなる。
- ・女性が安心して社会進出できる社会、安心して子供を生める社会、保育園の充実、すべてを受け入れられる社会、受け皿の安定、父親である男性の育児の参加(イクメン)、今そう言われていますが、将来のためにも少子化は不安です。少し本題からそれてしまいましたが、これからです。ゴールを目指さなくてはなりません。スタートに立ったと思い、削るところは縮小していきたい。
- ・「あらゆる分野で女性が活躍できる環境の整備」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」に向けて進めてほしいです。
- ・周知度を測るため「見える化」を徹底し、公報等で取り上げる。

事業内容

- ・そもそも男女平等なので、この男女共同参画が本当に必要か。当たり前のことではないか。あえて必要か。条例がある以上、やむを得ないのかと思うが、これだけの会議やキャンペーンがピンとこない。もっと見直した方が良い。
- ・自治会活動について女性進出がほとんどない。もっと活用を考えるべき。
- ・積極的な啓発運動、講座を開き、県民に参加を呼びかける。
- ・街頭キャンペーンの啓発活動、理解促進を図り、地域の強力・強化に努める。
- ・「あざれあ」を所有する必要を感じられない。街中から少し離れていて行きづらいのに、非常に高価な土地でありもったいない。だったら、民間、行政の会議室を借りた方が安いと思う。(もっと街中の方で)
- ・女性への研修よりも、男性に理解を求めるよう研修を行った方がいい。
- ・正直、女性の権利に甘え過ぎる女性も多数おり、女性の一部の方が女性全般と見られてしまうことが多い気がします。権利がありすぎるのもどうなのかなと思います。
- ・家事、育児も手伝ってくれている人も多いと思いますが、周りの話を聞くと、やはり女性のほうが負担が多いと感じますし、自分の職場も考えると、男性は仕事を休みづらいように感じる。会社側へ理解をもっと求めたほうが良いと感じます。また、保育園に入れても、風邪などで保育園から返されてしまうようで(私は子どもがいないので聞いた話です)会社に来れない方も多く、また小学校から学校行事、習い事等が増え、小学校に上がっても休みが多い方も多いです。このような話を聞かされているので、管理職になりたい女性も少ないのではないのでしょうか。もっと子どもが病気になっても預けられたり(預けられる所はあるが、症状が重い人が多くて、預けにくいとの話しも聞いています。(自分の子どもの風邪がさらに悪化しそう等))したら、仕事も続けやすいと思います。また、学校行事等も、働いている人にとっては負担を感じる時間帯が多い気がします。女性が参画するには、そのような保育、学校のあり方も考え直さないと難しいと思います。
- ・男女共同参画の日記念事業が1年に1回の割合で開催されているようだが、内容を見て今度是非行きたいと思ったが、平日開催ということで、働いている人にとっては会社を休んでいかなければならない。今後の開催について多くの人を呼び込むために、土日での開催について検討しないのか。

(2)その他の意見

- ・男女共同参画の言葉は聞いたことがあったが、自分の事としてあまり考えたことがなかった。
- ・女性の参画が上がる反面、少子化の問題が気になります。
- ・日本の国の問題だと思います。
- ・P139 知事褒賞とはどういうものなのか、具体的な受賞例を聞かせて欲しかった。
- ・H24 決算 3,515 千円に対して H25 予算 5,100 千円ですが、増えた内容が分からない。
- ・成果指標が抽象的。
- ・事業内容が漠然としていて理解しにくい。
- ・事業として見えていない。現状は男女平等であり、男女共同参画は当たり前では。今現在、格差はない。
- ・このテーマに否定的な者はまず少ない。テーマの正義性に「アンチ」はいないと思う。突き進むべし。
- ・現在、ボランティア活動の一環として料理教室を実施(年3回位)している。
- ・9月5日付の中日新聞に掲載されていた嫡外子差別は違憲という記事の中で、妾の子のくせに偉そうなことというなど友達から言われ、そのとき以来、自分の価値はずっと2分の1しかないということを必ず話してみせるといった記事があった。専門委員と県職員の議論を聴いていたが、形を作っても意識の中で、県民ひいては国民に男の方が偉いとか男の方が力があって女性は何もできない、というような意識がある限り、このような議論をいくら続けても仕方がないと思う。ドラスティックにその辺から解決、解消していかないと、なかなかこの問題は解決するのが難しいと感じる。